

Historians コメント集成 PART 1

番号	書名	読んだ人数	の総数	の平均
1	銃・病原菌・鉄 上・下	14	43	3.0714286
2	古代文明と気候大変動	11	39	3.5454545
3	歴史を変えた気候大変動	11	34	3.0909091
4	5000年前の男	18	60	3.3333333
5	夏王朝	15	41	2.7333333
6	線文字B	14	41	2.9285714
7	ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下	14	54	3.8571429
8	ローマ世界の終焉	5	17	3.4
9	地中海世界とローマ帝国	6	22	3.6666667
10	動物裁判	9	23	2.5555556

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

銃・病原菌・鉄 上・下

著者名	ジャレド・ダイア モンド	発行年	2000年
出版社名	草思社	ページ数	619ページ
値段	3,800円	ISDN	978-4794210050

人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。大陸がタテに長いか横に長いかわ、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！ あざやかな洞察。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	287-317	『1491』の内容と比較できる部分、その1箇所(上巻11章)だけ読んでみた。『1491』にもある内容は簡潔に述べられ、ない内容が割合として多く、退屈せず読むことができた。
2008/02/20 09:09:46	31P (20分)	実際は上巻冒頭下巻13章も読んだことがあるのだが、講義の前のことだったのでここでは加えていない。ただ、日本のことを書いている部分が、ちょっと単純化

	287-317	してないかと思える内容だったと思うので、他の部分もそのつもりで読む必要があるかもしれない。もっとも、比較的読みやすい本であるので、濫読にはもってこいの本ではあるが。
黒猫	1-26	内容は面白そうだったんだけど、途中でリタイア。
2008/02/19 16:06:43	26P (20分)	内容が深くて難しいから、知識教養を高めたい時に読むといいと思う。
塩キャラメル	1-317	痒いところに手が届くとは、まさにこの本のことだと思う。 歴史とは何なのか。今の社会はどのように生まれたのか。
2008/02/19 11:15:52	317P (300分)	学生時代歴史を勉強している時に誰もが浮かべる素朴な疑問に真正面から取り組んでおられます。 さすがピューリツァー賞！即、買いです。
	16-	あ、でも濫読には適していない感じがしてしまいました・・・。
ひいら	1-46	文字はなぜ生まれてきたのか？それは支配階級に民衆を隷属させるため。
2008/02/19 04:20:14	46P (20分)	人間にとっては悲しい生き物である。
	1-46	
市戸瀬	上巻133-191	第7章のテーマは「野生種と栽培種で性質が大きく違うのはなぜか」。
2008/02/17 14:57:00	59P (60分)	昔の人々が知らず知らずのうちに自分に都合のいいものを「栽培」していたというのはすごいと思いました。 でも、何千年を掛けてやっていた「品種改良」を、現代の科学ではもっともっと短いスパンでできる、ってのもすごいなあ、とも思いました。
	第7章	
フェンリル	18-26、304-328	読みにくい。表紙の美しさからは想像できない読みにくさ。それに所々脱線していく文脈。元の銃・病原菌・鉄という読む方にドラマを期待させる本の割に普通です。
2008/02/14 07:43:47	34P (50分)	意外にがっかりできるというのが、一番正直なコメントです。
	304-324	
謎の男	120-235ページ	人が生きていく上で必要な植物、その中でも人の手で色々操作できるものもあればそうでないものもある。
2008/02/12 23:17:40	108P (75分)	人の手を加える事が難しい植物は何故に存在していたのであろうか？ いろいろわくわくしながら読めますよ
	73-85ページ	
プーさん	14-46 257-282	イメージした内容とは違った。(少なくとも下巻は)人類学という感じか？
2008/02/06 16:32:43	59P (120分)	マヤ文字を読んだので、文字の普及の仕方の章は面白かった。
		表紙の絵だけでも見る価値あり！ (これでは読んだとはいえないけれど)
弟子	265-286	もし無人島に行くことになったらどんな本を持っていけますか。というありがちな質問に私はいつも「地図帳」と答えます。地図帳を見ただけで、名前だけ書かれた都市や村、そこに住む人々の姿、そんなものを想像するのが楽しいからです。
2008/01/28 01:48:58	21P (20分)	ところがこの本には、人の発達には地理的要因が非常に強いことを述べています。つまらない。私は地図上の人物を好き勝手に想像するのが楽しいのに、この本によると地図上にある都市や村はある程度地理によって恣意的に作られてしまっている、ということになります。つまらない。 まあこんな私のようなパラノイア以外のかたがたには普通に楽しめる本だと思いますよ。
	図表	
O'rei	下51-83,302-319,92-125,221-247	なぜ、ヨーロッパが世界の覇権を握ったのか。地理的、環境的要因に左右されたからだというロジックには隙がなく感嘆した。人口が増えると国家が必要に
2008/01/23 14:44:22	116P (150分)	

		なってくるという過程も面白かった。
すらいむ	180-251	コントロールしやすい植物でないと人間によって栽培されない、ということを改めて認識しました。いいものであっても扱いが難しいと広まらないというのは今の世にも通じるところがありますね。
2008/01/18 12:02:23	72P (30分)	
	180-191	「1491」を先に読んだので、ついつい比べて読んでしまいました。日本人にとって親しみやすい内容と冒頭で述べられていましたが、最初の方を読む限りそうは思えませんでした。
pudeo	1-4ページ、16-45ページ、48-75ページ	
2008/01/06 10:17:53	62P (50分)	文化発展の地域間格差というより、純粹に個々の謎を楽しめた。アーモンドに毒があったということだけで、十分な収穫になる。
	なし	
ガリレイ	上165-192,233-262,288-317	83ページの最後の一段落が好き。天才というのはどこにでもいて、その人が天才として掘り出されるかどうかは、地理的条件に左右されてしまうと言うのは新しい考え方であった。人間はひどく環境に支配されてしまう生き物なのである。
2007/12/06 10:16:40	87P (60分)	
	253page	凱
	下14-83、297-326ページ	
2007/11/03 17:26:07	102P (180分)	321-325ページ

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

古代文明と気候大変動

著者名	ブライアン・フェイガン	発行年	2005年
出版社名	河出書房新社	ページ数	341ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4309251929

静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起し、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。原題：The Long Summer

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
F A T B O Y	表紙、314-336	表紙のマチュピチュに惹かれちょこっとだけ読んでみました。
2008/02/20 08:49:02	24P (30分)	干ばつに文明を滅ぼすほどの威力があったことに驚きです。 日本に干ばつがないので実感できませんが。。。
	323-326	

弟子	帯	とりあえず帯しか読んでいないがそれだけでインパクトは十分。
2008/02/18 20:51:05	1P (1分)	本編を読んだ人で帯を読んでいない人は是非帯も読んでみてください。本編を読んでいない人でこんな分厚い本読む気が無い人は是非帯だけ読んで下さい。本編を途中まで読んだって言う人もとりあえずそこはおいておいて帯を読んで下さい。ふう、これだけ書けば十分だろう。
大	1-121ページ	大干ばつの中で、人々がどのように乗り越えてきたかが書かれている本。
2008/02/17 17:35:44	121P (80分)	日本には干ばつはないけれど、彼らの精神は参考にするべきである。
謎の男	12-133ページ	考古学に興味ある人には面白いかも！
2008/02/12 23:22:13	122P (70分)	文化、文明、時代・・・これらの言葉は似通った意味があるがそれぞれ違う意味ですよ。読んでいればなんとなくですがわかると思いますよ。
Who will I be?	1-55	
2008/02/01 16:04:11	55P (60分)	まだ大した文明のなかった時代のことをここまで見破ってしまうとは、圧巻である
ひいら	1-179、314-350	言葉がいちいちかっこいい。惚れる。
2008/01/24 02:33:14	225P (240分)	古代史の壮大なスケールと満ち溢れるロマン、張り詰めた緊迫感。文章がごついで読みは苦労したけれど、良い本でした。この言葉選びは役者さんの功績もあるんだろうなあ。
pudeo	9-31ページ、337-344ページ	「もろくて弱い世界をためらいもせず乗り越えてきた人たちの物語」
2008/01/20 09:48:54	31P (30分)	当たり前と言えは当たり前なのでしょうが、自然現象は管理できないということが再認識させられました。特に史料を元にいわれているので説得力が感じられます。
トーマス	64-94	クローヴィス人よりも前にアメリカ大陸にやってきた少数人を特定できないということを知り、少なからず考古学の限界を感じてしまった。これはもうタイムマシンを作るしかない！！・・・しかしほんのあまりの重量感に途中で挫折。無念。
2007/12/29 14:55:19	31P (50分)	
	71-72	
凱	1-17,314-350	分厚い本だなー、とあっていきなりエピソードを読んでみると大当たり。
2007/12/21 22:55:29	54P (100分)	筆者の言いたいことが手を変え品を変えギュウギュウと詰まっているではあ～りませんか。しかし、数千年数万年単位で物事を見ることは結構むずいぞ？！
	339-340	あと、ミラクル個人的な感想は「表紙のマチュピチュにいつか行ってみたいなあ～」ということ。
すらいむ	1-350	地理+歴史+地学+、みたいな本です。ハイブリッドです。
2007/12/13 00:52:56	350P (240分)	干ばつがまず起こらない日本の幸せをかみしめてください。
	236-240	
フェンリル	36-63,90-118,123-130,146-179,206-209,	目次、それだけ見てくれるだけでもいい。それすら無理なら、是が非でも帯だけは呼んでほしい。
2007/11/16 01:25:45	103P (120分)	サブタイトル一つ一つがインパクト！味があります。肉汁があふれる小籠包みたいです。気候大変動？出てきたっけ？
		文明 = どんぐり ピスタチオ
	123-126	これこそが真理かもしれない。たった、5ページでもいいから読んでください。これほどの名作があるなんて。うんちく王になりたいたい人にもおすすめ。鏝の作り方とか覚えます。



はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

歴史を変えた気候大変動

著者名	ブライアン・フェイガン	発行年	2001年
出版社名	河出書房新社	ページ数	294ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4309251547

ほんのわずかの気温変化がヨーロッパを凍えさせ、農民の反乱を、革命の時代を連れてきた。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み歴史時代編。原題：The Little Ice Age

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
O'rei	150-166	産業革命前のヨーロッパの8割もの人間が食うのでぎりぎりだったという事実には驚かされた。自分は、今の恵まれた生活が基準になっているので飢饉の怖さも実感としては何も分かっていないのだろうな。 アイルランドの単一作物の怖さもガクブル。効率性のみを追求しちゃいけない。今の日本も、経済は分担作業だから食料は他国から輸入すればいいや、とか言ってるが、危ない危ない。「人は食料なしでは生きられないの!」そこんどこ重要だと思う。
2008/02/20 00:38:16	17P (20分)	
	150-166	

紺	pp. 9-21, 251-258	内容たっぷり、数字たっぷり（縦書きなのに）。前々から興味があったアイルランドのジャガイモ飢饉の部分だけ読んだ。行き過ぎた単一栽培が招いた悲劇に愕然とさせられる。
2008/02/19 22:23:59	21P (30分)	人間は食べるものがなくては生きていけない。食べるものは豊かな自然のもとでしか生まれない。
	なし	状況は違うかもしれないが、食糧自給率の低い現代日本にもいずれ似たような災いが降りかかるのではないかと思わせられる。
大	9-128	自然は人間が操作できないものである。
2008/02/17 20:32:37	119P (120分)	その操作できないものと人々がいかにつき合ってきたかがわかる本。
		自然の影響がなければ、人が動かないため、今の世界はなかったかも。
謎の男	57-188ページ	人類が生きていく上で、非常に密接な関係があるのが自然。
2008/02/12 23:25:45	122P (88分)	この自然が引き起こす現象に着目した作品。
	98-112ページ	時には人の味方にもなり、時に脅威となる。自然の強さがよくわかった。
テニスする人	275 - 298ページ	現代の温暖化の状況を再確認できる。
2008/02/12 21:15:56	23P (30分)	「われわれはなにをすべきかおおよそ知っているが、それを実行するだけの意志に欠けている」
	275 - 298ページ	まさにその通りで、自分たちがもっと温暖化に対して危機意識を持たなければならぬと感じた。
フェンリル	9-78,147-274	同じ作者でありながら、こうも違う作品があるだろうか。
2008/01/24 00:31:06	196P (180分)	考えてみたら、目次の時点で力に入れかたに差があったように感じられる。おもしろいところがきつとどこかにあるはずと読み進めても、確かに飢餓や氷河など人々の歴史と大いに関わったことについて書いてあるのだが、詳しく書かれすぎていて、テンポが悪い。
	特になし	地名などに対して具体的な印象がわかかなかった。本を読んでいると言うより、教科書を読まされているという印象を持った。
		古代文明が私にとってあまりにいい作品であったため、こちらの作品に対して厳しめの評価となった。
pudeo	150-166ページ	気候変動など変化していくものに人が考え方を考えることで、農業などを発展させてきたことがよく分かりました。ヨーロッパにおけるジャガイモが印象的だったので、立ち読みポイントにします。
2008/01/20 09:32:44	17P (10分)	
	163-166ページ	
すらいむ	150-273	案外な勢いで温暖化 寒冷化を繰り返している地球に翻弄される人間のお話です。
2008/01/18 12:17:52	124P (60分)	アイルランドのジャガイモの超不作のところは10年くらい前の日本の米不作を思い出させられました。
	251-273	
トーマス	9-120	気候変動による深刻な影響が事細かに描写されていた。特に飢饉（51-78）は人間の無力さを思い知る章であった。
2007/12/12 13:39:30	112P (120分)	
	51-78	
のだめ	23-50	グリーンランドへ人々の移住の経緯が分かります。個人的にはちょっとだらだらしすぎているように感じたので星2つで。
2007/11/29 12:44:50	28P (10分)	
	23-50	
凱	51-145,221-232,251-273	内容はタイトルの「歴史を変えた気候大変動」とはあまり合っていない印象を受けた。
2007/11/03 17:32:04	140P (200分)	中身は気候に影響された人々の生活内容の記述がほとんどであった。
	2章と4章ならどこでも	途中、読むのをやめてしまいたくなるような場面もいくつかあり、政治でトップに立つ人への怒りや、困窮によって暴徒に成り果てた農民に対する複雑な気持ちがこみ上げてくる歴史書であった。

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

5000年前の男

著者名	コンラート・シュ ピンドラー	発行年	1998年
出版社名	文藝春秋	ページ数	375ページ
値段	650円	ISDN	978-4167309770

1991年アルプスの雪の中から発見された凍結ミイラ。折れた肋骨、毛皮の帽子、小麦の粒に未完成の弓矢。アルプス山中に倒れた彼はどこへ行こうとしていたのか？

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
akkie	328-375	アイスマンと呼ばれる、発見されたミイラから分かることは数知れない。彼はどのように生活していたのか？どんな道具を使っていたのか？どんな服装をしていたのか？興味ある人には必見です。
2008/02/20 08:33:28	48P (30分)	
ひいら	1-34	プロローグのだんだん真実が明らかになっていく展開がいい。「今度の騒ぎには、ぶったまげたね」このクールさはさすがです。
2008/02/19 16:41:49	34P (20分) プロローグ	

紺	pp. 109-113, 237-261, 322-325	1991年、アルプス山中で見つかった男性のミイラをめぐる本。 同じ凍結ミイラを扱った『インカに眠る氷の少女』に比べて謎解きの要素が強く、読んでいて退屈しない。
2008/02/19 11:40:05	34P (45分)	立ち読み部分では、アルプスとシベリアで見つかったミイラの共通点に驚かされた。偶然の不思議を思わせられ、ついで考古学や文化人類学など、あらゆる視点から自らを知ろうとする、ヒトという生き物そのものの不思議さをも実感させられる。
	pp. 252-255	
つちのこ	12-19	表紙が興味深い。プロローグを読んでみた。
2008/02/19 01:27:11	8P (5分)	5000年の歴史を超えてミイラが出てきた。
	12-19	とんでもないことが始まるなっという興味深いプロローグでした。
O'rei	12-166	5000年前のミイラなんて信じられない。
2008/02/18 12:11:45	155P (150分)	よくもまあ、残っていたものだ。 ミイラの特徴、遺品分析が面白い。 直訳文体なのが残念。
sala	1-223	人間は知恵や技術を日進月歩で発展させてきたと思いがちだけど、それはごく最近の、ごく一部のことで、一番根っこにあるものはほとんど変わってないのだなと思いました。
2008/02/11 03:56:43	223P (300分)	
	表紙	
announ	12-71	表紙の写真に引き付けられて読んでみた。
2008/02/07 19:34:11	59P (40分)	自分的には、ミイラを見てその人の私生活を考えるのも好きかも・・・表紙を10分見つめてました。
黒猫	12-362	巻頭の写真・・・のっけからやられました!(´ `ノ)ノ
2008/01/30 18:25:42	351P (200分)	5000年前の男のアップ・・・まあ、見て下さい。(*´ `*)ノ
	328-346	推理小説みたいでドキドキしました。(*´ 艸)
のだめ	121-198,237-256,341-346	
2008/01/28 17:39:15	100P (90分)	最後のときに何が起こったのか？これだけでも読んでみると良いのでは？
	341-346	
Nothing to lose	Lab.	今から16年前の1991年にオーストリアとイタリアの国境の氷河の中で見つかった紀元前3000年頃の男性のミイラの調査書です。
2008/01/17 01:45:20	346P (360分)	
	126-140, 145-150, 153-197	この男性の所持品(弓、網、また第二回目の調査で発見した帽子など)から、紀元前の世界の人々の生活を探ることができます。もちろん、また沢山の謎分かっていませんが、紀元前の人々の生活に興味ある方に対しては非常にいいツールです。
kazupi	1-71ページ、348-375ページ	ミイラと聞けば普通は乾燥したものを想像するが、本書のミイラは氷付けで発見された大変珍しいものであり、しかもピラミッドやメソポタミヤの王朝が出現する前の人類のものである。ミイラや遺留品から、彼の職業、出身、死の直前何をしていたかなどについて紐解いていく様子が興味深い。またこのミイラは歴史的な発見として一般にもブームを巻き起こしたが、その浮ついた空気や誤って嘘を流すマスコミについても触れられている。学者が一般に対して正しいことを伝える姿勢についてを考えさせられる内容であった。
2008/01/10 16:56:23	99P (60分)	
	348-375ページ	
弟子	1-223	1ページ目開いた瞬間はグロいかもしれないがそれはご愛嬌。 ミイラの発見と発掘ストーリーが非常に人間臭い。それが意外といい感じのリアルさを持って伝わるから不思議だ。歴史に残るような大発見でもこんなう風に決して優雅ではないステップが踏まれていたことを面白く思った。
2008/01/09 03:12:56	223P (110分)	途中面白いと思ったのはミイラの名づけ方。このミイラは近くの地名の名前からもらったそうであるが、本の中にあつた別のミイラ「ルーシー」の名づけ方に思わず吹いてしまった。ここにもまた人間臭さがあつて面白い。
	203-223	例えば考古学のように、自分が高尚であると思うっていた学問でも、こんな風に奇妙な形で人間の手が入っていることが面白かった一冊。
謎の男	p12-113	ミイラの歴史がよ～くわかる1冊。

2007/12/23 00:58:13	102P (75分)	別にミイラの特集というわけではないので・・・人類の昔に関して興味ある方は是非。
	19-77ページ	
凱	1-19,122-223	5000年前は人類の歴史からするとそんなに昔という印象はない。しかし、文明の歴史からみると結構昔の感じがする。
2007/12/13 22:11:44	121P (180分)	5000年前の人間の持ち物や服装から、その人が死んだときどんな状況だったのかを再現することは、すごく不思議な感じがするし、わくわくもする。
	194-197	5000年前 = 1780000日前 = 42720000時間前 = 2563200000分前 = 153792000000秒前 どんな世界か想像するだけで面白い。
大	74-325	巻頭のミイラの写真がグロテスク。目玉あるし、、、
2007/12/13 04:26:29	251P (200分)	5000年も昔の人が冷凍保存されていたことにも驚いたが、それ以上にそのミイラから故郷や暮らしなど様々なことが解明されることがすごい。遺体は語る。私も死が近づいてると感じたら、北へ向かおうと思う。
ハイパー・ワイパー	226-272	ミイラの細かい特徴を見ていくことで、様々なことがわかってくる。どのような身分で、どのような病気を持っていて、どのようにケガをして、どのように死んだのか。さらに当時の文化の解明や、考古学が現代医療へ応用できることも、おどろきだった。
2007/12/04 13:32:54	46P (60分)	
	257-261	
ぺんね	12-83ページ、122-140ページ	5000年前のミイラがどのように発見されたのか、また発見者の心境はどのようなものかということが、興奮気味の文章によって伝わってくる。第三章からは遺留物に関する詳しい分析もあり、ミイラ好き以外にも読みやすい本です。
2007/11/12 01:36:07	90P (50分)	
	22-34ページ	
トーマス	200-223, 328-346, 74-120	現代において服装というものはファッションの意味合いが強いが、この時代の衣服はまさに「生活の、生き残るための知恵そのものである」と感じ入ってしまった。マント必見！
2007/11/11 22:48:27	89P (70分)	
	203-223	

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

夏王朝

著者名	岡村秀典	発行年	2003年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	308ページ
値段	1,050円	ISDN	978-4061598294

般よりさらに古い4000年前の王朝の姿が、ここまで分かってきた。鼎・足付きの土器・占いの骨から復元されてゆく生活と文化伝播のありよう。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	31-107	確かにやや重い内容。古典漢文に免疫のない人はまず読まないほうが良い。横山光輝の『史記』あたりを読んでおけば手軽に免疫が得られるかも？
2008/02/20 08:57:22	77P (60分)	
	73-88	果たして夏がトロヤのように実在が確かめられることになるのか興味が尽きない。
つちのこ	9-20	夏王朝の実在から中国の文明の歴史について。ちょっと重く読みづらい。中国に思い入れがある方読んでみて下さい。
2008/02/19 01:33:11	12P (10分)	

大	1-112	漢字が難しい。予備知識がない。言葉が難しい。
2008/02/17 18:01:35	112P (60分)	私にはとても読みにくい本でした。
		中国の歴史に興味がある方にはおすすりめです。
黒猫	21-72	
2008/02/15 22:42:40	52P (35分)	日本が石器時代だった頃、中国はすごいコトしてたんだなー。
sya	P.1-P.20,P.266-P.273	んー、中国の文明に興味がないわけではないんだけど、やっぱり文字だとその面白さが表現されにくい気がする。
2008/02/12 21:53:51	28P (30分)	テレビとかの映像の方が個人的には好き。
	特にないです。	そういうのは「中国の歴史が好き」とは言えないのかもしれないが...
announ	1-308	伝説の王朝を題材にした本。
2008/02/07 18:32:02	308P (92分)	中国の歴史に興味のある方はぜひ！！
Nothing to lose	21-60	
2008/02/03 21:59:57	41P (90分)	神話ではなく、確かに存在であった...これは考古学である。
	21-24	中国初の王権について検証した。とてもいい本です。
チョコボール向井	1-229	
2008/02/01 14:40:32	229P (180分)	伝説と言われた「夏王朝」。
	特になし	歴史ロマンが好きの人にはウケると思います。
プーさん	21-72 266-273	
2008/01/30 00:38:37	60P (100分)	用語が難しく、読みにくかった。
	266-273	とりあえず終章だけ読めば、夏王朝のまとめに触れられるので読んだ気になれる。
テニスする人	9 - 20ページ	
2008/01/24 10:24:30	11P (20分)	プロローグだけ読んでやめちゃいましたが、歴史の真実に迫っていく感じがして、読み応えがありそうだった。
	9 - 20ページ	
87	1-72	
2008/01/21 14:15:49	72P (100分)	はっきり言って漢字ばかりで読みにくい。世界史はほとんど忘れてるので、予備知識は皆無なので場面が思い浮かべれ無いいことが多かった。
	49-51	でも逆に、ある程度の知識と興味がある人にはたまらないんじゃないかと思う。
pudeo	9-72,195-229,275-312	
2007/12/23 14:44:57	137P (120分)	「補論」で現在の「夏王朝」に関する議論の状況が伝えられているのが興味深い。考古学の文化・類型は作業仮説に過ぎないというスタンスが貫かれていたり、第3者的なところから見ながら筆者の結論が最後にしっかり書かれているところがいいと思った。立ち読みポイントはまとまっているあとがきにしますが、お勧めの章は学術文庫版「補論」と第5章「二里頭文化の生活」です。
	308-312	
トーマス	73-144 195-229	
2007/12/01 08:17:15	106P (120分)	この本を通して、考古学の「歴史」に対するアプローチの仕方がわかるだろう。・・・漢字が難しかった(泣)
	108-144	
謎の男	21-194ページ	
2007/11/24 00:01:02	174P (75分)	中国の文明、歴史は深い。
	92-107	この本を読んだだけで全てカバーできるわけではないが、歴史の「重さ」や「深さ」を知ることができる。
		読んでみればわかる。
凱	9-107,145-194	
2007/11/13 21:58:06	149P (180分)	ギョウ、シュン、ウ。
	24-38ページ	第一章を読めば、夏を知りたくなる気持ちが膨らむだろう。
		「伝説」という言葉は歴史学の専売特許のような売り文句。
		伝説の人物を、伝説の王朝を追い求めてみては？

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

線文字B

著者名	ジョン・チャド ウィック	発行年	1996年
出版社名	学藝書林	ページ数	110ページ
値段	1,553円	ISDN	978-4875170136

3500年前の文字をどうやって解読したか。粘土板に刻まれた古代ギリシャの物品リスト。ぶどう酒に雌ヤギ、あの顔文字は何？ 暗号解読に挑戦。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	1-19	第1章だけ立ち読みしてみた。興味はあるのだが、『マヤ文字』が意外と読むのに時間がかかったので今回はこれくらいで。
2008/02/20 08:41:35	19P (15分)	古代地中海の話題が書かれた本ではホメロスが重要そう。少ししか内容を知らないなので機会を見つけて知識を得て、それから本書を読めば理解も深まるかもしれないと思った。
	1-19	

ひいら	1-19	それ以外もぱらぱらとは見たんですが...うーん。理解が追いつかない。
2008/02/19 17:12:27	19P (20分)	とはいえ失われた文字をどうやって論理的に読み解いていくかのプロセスは興味深かったし、「失われた文字の解読」ということ自体が、なんだかロマンがあって面白いし。
	1-19	もう一度気合を入れて読み直したいところです。
大	8-109ページ	はるか3500年も前の文字を、
2008/02/17 17:49:56	102P (100分)	自分自身も解読(予測)しながら読んでいけて、面白かった。途中から読むのは難しい本かもしれない。時間のある方におすすめ。
黒猫	38-54	
2008/02/15 22:50:53	17P (30分)	古代文字を見てたら、どんどん色々な意味に見えてきて面白かった。文章は読んでません。(笑)
フェンリル	38-54	読むと言うよりも見るというべき本。マヤ文字との親戚的な本ですけど、私としてはこちらのほうが神秘性を文字自体に感じて、見ていて興味がわいたという点で、評価高めです。
2008/02/14 07:37:52	17P (15分)	線文字の美しさを少しでも感じられる本。
	38-39	
sala	1-19	
2008/02/11 04:01:35	19P (30分)	手軽なページ数に見合わない内容でちょっと残念。
	1-19	
announ	1-19	
2008/02/07 18:34:16	19P (30分)	文字が大きくて読みやすいかも!!!って思ったけど・・・結局、一章で断念・・・
高枝切りばさみ	第一章	
2008/02/06 09:59:23	19P (10分)	第一章をぱらぱらと流し読みしてみたけども、私が興味を持つような内容ではあまりなさそう。時間が許すならばちゃんと読むのですが、とりあえず今はここまでで。
	とくになし	
市戸瀬	8-75	中学の歴史だったか高校の世界史だったかで「線文字B」というものの存在をはじめて知ったのですが、そのときは「古代の地中海で使われていた文字」だということしか教わりませんでした。
2008/02/02 14:03:12	67P (50分)	そのため、この粘土板が偶然できたものだとか、数量を主に記録するための文字であることとか、いろいろと発見があって面白かったです。
	pp.51-54	立ち読みポイントは「表意文字」の解説部分。表音文字はなにがどうしたらこういう音を表すのかさっぱりわかりませんが、表意文字はなんとなくわかるような気がしてちょっと面白い。
テニスする人	8 - 41ページ	
2008/01/24 10:31:45	33P (20分)	流し読みをしていきましたが、途中で分けわかんなくなっていました(笑)じっくり読んだほうがいい本だと思います。40 - 41ページは、線文字がたくさん載っているの、線文字を見たい人はどうぞ。
	40 - 41ページ	
pudeo	全部	ギリシャの地理や歴史の知識が、筆者程とは言いませんがもう少し私にあればもっと面白く読めたはず。立ち読みポイントはなしにしましたが、あえて言うなら、p20-37の第二章「解読」。線文字B以外の線文字Aやファイストスの円盤に書かれた文字と違って、ほぼ分かっている古代文字(線文字B)を解読する過程にふれられるので少しおススメ。
2007/12/26 16:37:20	110P (150分)	私も、訳のせいのところどころ読みにくく感じました。(特に後のほう。)
	なし	
弟子	全部	学部一年生のときに取ったドイツ語の授業で、とりあえず見たことのない単語は誰かの名前だって考えると意外とすんなり解けることを思い出した。なぜかはわからないけれど。
2007/12/03 05:57:08	110P (70分)	もともと海外児童文学とかを積極的に読んでいたので翻訳物の文章を違和感無く読めるスキルはあったけれど、これは向かなかった。途中にある、どうも暗号にしか見えない文字のページに目が止まり、初めはそこから読もうとしたけれども、どうにも理解が追いつかなかった。それで諦めて初めから読むでは見たけれど、それでも理解は厳しかった。拾い読みするのであれば、最後の7章がお勧め。この本を全部読まなくとも、とりあえず読んだ気になれるところです。でも、きちんと最初から読んだ人にはより深く伝わってくるはずです。
	第7章	紺さん、p8-105って、一部って言わないですよ...(全110ページ)

紺	pp. 8-109	古代地中海で使われていた文字について、線文字Bの解読を中心として述べた本。
2007/11/15 22:09:15	102P (200分)	拾い読みには向かないので、一部だけ読むならpp. 8-105がおすすめ。似たような固有名詞ばかりで混乱するが、腰を落ち着けてじっくり読むと、最後に出てくる書きかけの粘土板のエピソードにしんみりする。線文字Bが解読されたのは1952年だということにも驚かされた。
	pp. 33-37	訳のせいか読みにくく、内容も読み手を選ぶかもしれないが、このシリーズの他の本も読みたくなった。
凱	全部	同じシリーズの「マヤ文字」に比べとっても読みやすかった。
2007/11/14 22:39:54	110P (150分)	個人的には文字の形はマヤ文字のほうが好きだが、線文字Bもなかなか意味深である（当たり前なのですが・・・）。
	33-37ページ	この地中海の奇妙な文字の解読作業の臨場感が結構伝わってくる一冊。

[TOP](#)へ

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下

著者名	塩野七生	発行年	1993年
出版社名	新潮文庫	ページ数	581ページ
値段	1,200円	ISDN	978-4101181530

カンヌからザマへ。戦術の天才が、ついにその牙を折られる時が来る。敵はスキピオ、「あらゆる彼の行為は完璧な論理的帰結を持っていた」と称された男。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ひいら	下1-18	ローマ人の物語。 機会があるごとに読みたい読みたいと思いつつ、なんとなく合わない本。下巻だけっていうのもあるのですが。うーん。
2008/02/19 16:39:55	18P (10分)	
	1-18	
大仏君	上18 - 88ページ、中14 - 134ページ	イタリアに1年間住んでいた私にとっては非常に面白いものでした。 特に中巻の最初の方ではスペイン侵攻の話がつづられていて、興味深かった。 スペイン旅行したときにはローマ遺跡が残っている町が多

2008/02/19 14:58:24	192P (200分)	くあったことや、スペイン語の方言が非常にイタリア語に近かったことの起源がここにあったのだとうなずけました。 塩野七生さん自身がローマの物語に引き込まれているから読者も引き込まれるという印象を持ちました。
	14 - 50ページ	
sya	上巻全て	世界史を暗記量の多い面倒な科目だと思ってる人には是非読んでほしい。 冒頭の塩野さんの読者へのメッセージでも述べていたように、これはまさに『オトナのための歴史』だ！ 教科書には決して書かれることのない数多くの出来事が淡々と書かれ、時折作者が意見を出しているといった感じで読みやすい。 また、今では当たり前となっている事実の起源がこの頃にあたりして(たとえば、なぜ今のローマの周りにはオリーブなどの畑が多いのか?とか)、その説明もあるのでちょっとした知識も得られる。
2008/02/19 14:02:13	151P (180分)	自分は上巻しか読めず、ハンニバル戦記なのにハンニバル本人が登場しなかったので、絶対中下巻も読もうと思う！
	pp.11-pp.16, pp.104-pp.117	
大	上巻全部	様々な資料をもとに、歴史を読み解いていて、非常に読みやすかった。 ほとんど客観的なことしか述べていないが、不思議とすらすら読める一冊。
2008/02/17 19:14:04	151P (160分)	
黒猫	124-125	
2008/02/15 22:44:54	2P (2分)	財産と軍の関係、こんな風になってたんだー。
フェンリル	176-192	おもしろい。しかし、私がなんと読んだのはハンニバルの下巻！ 前の章でも説明したが、などの文章が出てくるたびに、マジで？ってつっこみを入れながら読んでいました。 作品自体としては読みやすく、また劇的な時代を取り扱っていることから、少年魂には熱いお話です。また機会があれば、ゆっくり読みたいほんの一つです。
2008/02/14 07:41:05	17P (20分)	
	176-192	
announ	下1-100	最近、テレビでも放送された塩野七生さんの本。 前々から知ってはいたが、実際読んだのは今回が初めて、しかも下だけ・・・ しかし、すぐに本の世界へと引き込まれていった。他のシリーズも読んでみようと思った。
2008/02/07 19:14:44	100P (120分)	
市戸瀬	下巻14-32, 69-91	たまたま手に入ったのが下巻だけだったのと、あまり「濫読」をしていないので、適当に読んでみました。 でも、濫読しても面白かったです。大仰な表現を殆ど使わずにここまで読ませるとは・・・塩野七生さんが人気なのも納得です。
2008/02/06 10:41:01	42P (20分)	立ち読みポイントは、ものすごい名言だと思う場所です。 ぜひ読んでみてほしい。 適当に読んだのにこんな名言に出会えるとは思ってなかったです。
O'rei	上巻全部	歴史を知るといえるのはこういうことだったのか、ということがよく分かる。しかし、まあよくここまで資料を集めて史実に忠実に書けるとは、すごい筆者だ。すごく分かりやすい文章できちっと書いている。批判も何も加えてないが、ただ淡々と書いてある歴史がこんなにも面白いとは思わなかった。歴史の面白さの一面を垣間見た。
2008/01/28 19:17:26	151P (120分)	
	上66-70	

テニスする人	上24 - 151ページ	昔の人の戦術 = 地形をどう生かすかのような気がした。いろいろな人が登場するけど、以外に混乱したりしないと思う。
2008/01/24 10:21:37	127P (150分)	時間あったら全部読みたい！！
	24 - 88ページ	
プーさん	上中全部	あまり歴史には興味を持たないほうではあるが、この本は苦も無く読めた。
2008/01/17 12:27:22	382P (540分)	時代背景を踏まえた上で、当時の人間が何を考え、どういった戦略を組み立てたかを追っていくのは非常に興味深かった。
	上41-54 中99-116	
謎の男	p14-115	上巻だけ読んだんですが・・・これ、早く次も読みたいなと思ってしまいました。
2007/12/23 01:01:24	102P (80分)	と言っても、途中まで読んでそんな感じになったので・・・笑
	p24-60	地理が苦手なんですけど、これは結構わかりやすいですよ！
凱	上・全部	まず、本書を手にとっての感想。
		上巻はとっても薄いです。
		なのであっという間に読み終わってしまいました。
		しかし、おや？
2007/11/29 17:19:44	140P (150分)	副題は「ハンニバル戦記」とな。
		上巻ではちらほらハンニバルだのスキピオだの出てきますが、かする程度。
		何事もそうですが、自分が話をつかめていないのに、勝手に話が進むのは気に入らない。そんな人は上巻から読みすすめてみては？
	43-49	地図があるので、地理や歴史に疎い人でも大丈夫。
高枝切りばさみ	上8-151、中8-262、下8-207	私自信が戦記に強い関心があったことと無関係なわけがないが、非常に面白かった。合計600ページ弱という、決して短くない3冊をもの数日で読了させたこの作品には、戦術、戦略、外交と戦争の妙味がかなり分かり易く書かれている。どこを取っても面白いが、一部のみ抜粋して読むなら（それでも中巻一冊+下巻前半という結構な量にはにはなるが）、第二次ポエニ戦役について読むのを勧めする。
2007/11/06 19:33:00	596P (600分)	立ち読みポイントには、ハンニバルとスキピオという稀代の名将の活躍について触れる本作の性質からすればあまり本筋とは呼べないものではあるかもしれないが、かの有名なアルキメデスとその発明一つでローマの数万からなる軍勢に人的被害なく持ちこたえ続けたというエピソードを挙げておく。これもまた、科学の持つ戦争への影響力を垣間見ることのできる面白いエピソードである。
	中171-179	もし戦記に興味があるなら三冊全部読んで損のない一冊であると思う。あまり大きな声では言えないが、文庫本なので1ページあたりの文章量が少なく、ページ数を稼ぎ易いため、単位のためにとりあえずページ数を稼ぎたいという人にもぜひ。

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

ローマ世界の終焉

著者名	塩野七生	発行年	2006年
出版社名	新潮社	ページ数	396ページ
値段	3,000円	ISDN	978-4103096245

蛮族に侵食されて大帝国が滅びてゆく。その滅びの運命にどう抗うかで、男の真価が定まるのではないか。軍総司令官スティリコの生涯をいとおしむようにたどる作家のまなざしは、惚れた男へと向けるそのような。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
大仏君	161 - 269ページ	ローマ帝国の滅亡の部分を読みました。中でもヴェネツィア誕生の部分は面白かったです。ヴェネツィアには3回も行っているのが良く知っている町なので、その起源が知れて面白かったです。フン族から逃れる為に明らかに人間が住みにくい場所に移り住まざるを得なかったということらしいです。そんな起源なのにあそこまで美しい町を作り上げることができたローマ人はホントにすごいなと感心するばかりです。それにしても塩野七生さんはまるで自分がその時代に生きていたかのように語っていて、ローマ人が取り憑いているじゃないかと思いました。
2008/02/19 15:12:23	109P (100分)	
	235 - 240ページ	

大	1-120ページ	私がイメージしていたローマ帝国とは全く異なる世界が書かれていた。かつてあれほどまで栄えたローマが終わりを迎えてしまったように日本も、国民が墮落し、滅びるようなことがあるのか不安である。
2008/02/17 17:58:20	120P (80分)	
黒猫	1-162	栄えるだけ栄えたら、あとは滅ぶしかないのか？ 滅びない国はないのか？ ．．．諸行無常ですね。
2008/02/15 22:56:54	162P (100分)	
フェンリル	138-150	視点が違うだけで、内容が変わるという歴史そのものを示したような本。ハンニバルと両方を読むか、またはこの時代の歴史にある程度の知識を持っていない場合は、あまり楽しめないかもしれません。その時代の歴史は教科書に出てくる一つではなく、いまの時代のようにたくさんの立場があったんだと理解できる本。
2008/02/14 08:10:12	13P (15分)	
	138-150	
高枝切りばさみ	1-405	ハンニバル戦記と筆者が同じであるという理由から読んでみたが、同じローマがここまで違うのか、と驚かされた。ハンニバル戦記に書かれていたローマは市民全員が一体となって戦う国だった。しかし、この本に出てくるローマ市民にはその頃の気概などかけらも感じられない。むしろ滅びて然るべきという退廃ぶりだった。盛者必衰とはよく言うが、何ゆえこのような状態に陥ってしまったのか、本当にこうなるしかなかったのか。是非ともローマの歴史の全てを知り、考えてみたくなった。しかし、ハンニバル戦記とこのローマ世界の終焉を読んで、すっかり塩野七生氏の文章が気に入ってしまった。いつかこの「ローマ人の物語」を一から最後まで読んでみたい。
2008/01/16 04:57:44	405P (600分)	
	特に無し	

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

地中海世界とローマ帝国

著者名	本村凌二	発行年	2007年
出版社名	講談社	ページ数	343ページ
値段	2,300円	ISDN	978-4062807043

塩野さんが各駅停車なら、こちらは特急。大帝国が勃興してから滅ぶまで、多士済々の登場人物を手際よく出し入れしつつ、帝国滅亡の原因にまで説き及ぶ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sya	pp.1-17, pp.115-159	ハンバルのところだけ読んだ。 私はこれを読んだあとに塩野さんの本を読んだのだが、正直言って塩野さんの本のほうが個人的には面白かった気がする。 しかし、上の紹介文にもあるようにローマ帝国滅亡までを一気に描いているのでやむを得ないのだろう。
2008/02/20 00:20:36	62P (60分)	
	最初のカラーページ	
テニスする人	81 - 86ページ	ローマの建国神話を見ることができます。 結局「女」が絡んでくるところが今も昔も変わらないなと感じた。長い歴史の中で変わらないものもあるのかなと思った。
2008/02/12 21:48:34	6P (10分)	
	81 - 86ページ	

きつとかつと	115-160	ハンニバルの章だけ読みました。ハンニバル戦記は読んだことがないので、世界史で習ったところをより詳しく読んでいて新鮮でした。特にハンニバルが亡命したことは知らなかったので勉強になりました。
2008/01/24 17:13:00	46P (60分)	
	115-160	
Nothing to lose	lab	<p>読んだページ数と時間を半角数字で正しく入力して下さいというメッセージが何回も出てきて、書き込みできずイライラになりました。-----読んだ場所はlabで、読んだ時間は約25時間です。すすめは116-125、199-205、321-327ページです。</p> <p>前七五三年の建国神話に起源をさかのぼる都市国家は、なぜ地中海を覆う大帝国を築くことができましたのか。熱狂的な共和政ファシズム、宿敵カルタゴを破った「父祖の遺風」など興隆の秘密を説明し、多神教から一神教への古代社会の変貌と帝国の群像も描かれている。</p>
2007/11/29 15:33:48	356P (25分)	<p>この本はローマの建国から、帝国の東西分裂、また西ローマ帝国の滅亡など古代末期までをまとめた1冊のとても面白い本です。しかし単なるローマ史概説ではなく、ローマの登場以前にオリエント・地中海世界に存在したアッシリア、アケメネス朝ペルシア、アレクサンドロス帝国も書かれている、それぞれ「強圧の帝国」「寛容の帝国」「野望の帝国」と位置づけ、これら先行した帝国と比べて長く安定した帝国をローマがなぜ作り得たのか、そして作り上げた帝国がどのように変貌していったのかということ、ローマの歴史で活躍した様々な人物の話も取り込んでいます。</p> <p>「父祖の遺風」がローマ人の行動規範となってローマをイタリア半島統一達成やカルタゴとのポエニ戦争での勝利をもたらしたと言う形で説明したり、多神教帝国ローマが一神教に取って代わられる背景として主が十字架で犠牲になるという物語のわかりやすさ、下層民が救いを求める状況にあったこと、心の豊かさが求められるといったことを挙げて説明するなど、古代人の心性の面からローマ帝国の歴史をまとめているようです。</p>
高枝切りばさみ	115-160	一言で言えばローマ帝国に特化した分厚い歴史の教科書。
		あえてハンニバル戦記と内容がかぶるところを読みましたが、あちらに比べるとどうにもこうにも淡泊で・・・
2007/11/28 20:38:04	45P (90分)	まあ詳細さが違うので仕方がないといえば仕方がないんですが、それぞれの国が具体的にどういう手段で戦ったかがあまり見えない。すなわち、戦記の一番の旨みが無くなっているわけで。この有様なら他は読まなくていいかな、と思い、ここだけで終了とさせていただきます。
	なし	
Nothing to lose	Lab	西洋と東洋は地理的に離れて、全然違う文化だけど、偉い人の誕生には伝説あるのが共通みたい。
2007/11/14 00:45:57		

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

動物裁判

著者名	池上 俊一	発行年	1990年
出版社名	講談社	ページ数	234ページ
値段	735円	ISDN	978-4061490192

ブタの絞首刑、ハエの破門。西洋中世の大まじめな裁判劇に立ち会って見えてくる彼らの自然観と正義観。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
つちのこ	7-20	動物裁判ってなんだろう？ テーマに興味を持ったが挫折してしまった。 文章が読みづらい。ちょっと期待はずれでした。
2008/02/19 01:21:56	13P (10分)	
大	7-74	動物も人間と同じように裁判する。 ある意味究極の平等社会なのかも。 しかしながら宗教的な側面もかなりある。 裁判のやり方は面白かった。
2008/02/17 18:09:42	67P (60分)	
F A T B O Y	7-132	動物にも人間と全く同じ裁判を行っていたようです。 動物に裁判をするだけでも今の時代からだと「ん??」って思うの

2008/02/13 01:30:35	126P (120分)	に、人間と全く同じとは。。。
	36-46、83-88	中世ヨーロッパの不思議です。
謎の男	8-70ページ	中世ヨーロッパにおいて、現実として実際に行われた裁判に関して事細かに説明してある。
2008/02/13 01:20:41	73P (65分)	どうやって裁判やるの? という興味を惹かれた作品で、結構面白かった。
	44-48ページ	
市戸瀬	8-46,210-215	動物裁判の具体例について書かれたプロローグと、具体的な審理方法について書かれた第一章をとりあえず読んでみたのですが、あまりにも突っ込みどころが多すぎて、終わりのほうの「動物裁判とはなんだったのか」も読むことにしました。
2008/02/11 23:52:38	45P (20分)	私にとってはあまりにも斬新な視点で面白かったです。
	30-32	ちなみに。何をもって「動物の自白」とするのか知りたい方は、32ページを読んでみてください。
Nothing to lose	7-78	今でも不思議の話です。
2008/01/29 11:32:34	71P (90分)	教会や、宗教の事も書いており、中世ヨーロッパの風景を展開している。
	7-23	
紺	pp. 8-84	中世ヨーロッパの動物裁判を、細かい調査に基づいて扱った本。前半が事実を述べ、後半で中世の社会との関わりを考察するという構成になっているが、文章の密度が低くて途中で挫折した。時間があつたらじっくり読みたい。
2007/12/29 15:04:38	77P (110分)	とはいえ多くの資料にあたっているの、図版ページをながめ、関係ありそうな部分を拾い読みするだけでも博物館に行ったような気分になれて楽しめた。
	なし	
87	1-234	
2007/12/02 11:06:22	234P (200分)	中世ヨーロッパで実際に起こった動物裁判を取り上げている。宗教、自然への感受性等からの分析はとても興味深い。
	162-164	
フェンリル	7-23、46-78、134-179	全体として、テーマはおもしろい。しかし、その描写、表現はグロテスクな一面が先に出すぎていて、読む人を選び、またその手のものに免疫がある人でも、満足はいくものとなっているとは思えない。論述として薄いイメージのある本であった。事件の事例を淡々と並べているようにしか見えない部分も多々ある。
2007/11/14 22:44:08	116P (120分)	しかし、自然を征服しに行く過程と、動物と人間との社会的関係を知るには、とてもいい本である。ペットを飼っている人などには、薦めにくい、コンクリートジャングル大好きな、虫嫌いな方などには、もしかしたらカチッとハマる本かもしれない。
	134-150	